

報告事項 2

平成23年度神戸市学力定着度調査の結果について

「平成23年度神戸市学力定着度調査」の結果について、別添のとおり、報告する。

平成24年4月24日提出

神戸市教育委員会

教育長 永井秀憲

1. 調査の目的

児童生徒の学力の定着状況や学習に対する意識及び生活実態を神戸市全体として把握し、調査結果を指導方法や指導内容の改善に役立てる。

2. 調査の対象学年と対象児童・生徒数

小学5年生1,340人、中学2年生1,200人（全市の約10％）

3. 調査方法と調査教科・内容

- ・教科に関する調査（小5：国語・社会・算数・理科、中2：国語・社会・数学・理科・英語）
- ・質問紙調査（小5児童、中2生徒、教員）

4. 標準実施日 平成23年10月25日（火）・26日（水）

「平成23年度神戸市学力定着度調査」の結果概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

児童生徒の学力の定着状況や学習に対する意識及び生活実態を神戸市全体として把握し、調査結果を指導方法や指導内容の改善に役立てる。

(2) 調査の対象学年と対象児童・生徒数

	抽出数	備考
小学校5年生	1,340人	全市小学校5年生の約10%
中学校2年生	1,200人	全市中学校2年生の約10%

(3) 調査方法と調査教科・内容

調査方法・対象学年等		調査教科・内容
教科に関する調査	小学校5年生	国語・社会・算数・理科
	中学校2年生	国語・社会・数学・理科・英語
質問紙調査	小5児童・中2生徒	学習に対する意識・生活実態調査
	教員	児童生徒の学習状況・学校教育活動に関する調査

※ 調査問題は、文部科学省による過去の全国調査（平成13・15年度教育課程実施状況調査、平成19～22年度全国学力・学習状況調査等）や神戸市独自作成問題等を組み合わせて使用した。

(4) 標準実施日 平成23年10月25日（火）・26日（水）

2. 結果の概要

(1) 教科に関する調査

- ・小・中学校ともに、全ての教科において、学力は「概ね定着している」という結果であった。
- ・各教科の領域別に見ると、ほとんどの領域で「概ね定着している」という結果だったが、小学校では、特に「算数」の「量と測定」領域、「理科」の「生命」領域が良好な結果であった。また、中学校では、「数学」の「関数」領域、「理科」の「エネルギー」領域、「英語」の「読むこと」領域が良好な結果であった。一方で、「理科」の「地球」領域で課題が見られた。

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

- ・中学校では、学校の授業が「分かる」と答えた児童生徒の割合が平成20年度から上昇を続けており、23年度の78.7%は、平成16年度の測定開始以来、最もよい結果であった。小学校でも91.9%と高い結果となった。
- ・1か月に本を「ほとんど読まない」と答えた児童生徒は、小・中学校ともに、平成16年度の測定開始以来、最も低い数値で、最も良い結果となった。
- ・「何らかのボランティアに参加したことがある」児童生徒の割合が、22年度より大幅に上昇した。

(3) 教員に対する質問紙調査

- ・情報発信の方法として、「学校のホームページ」を挙げる割合が増加している。

3. 各教科の調査結果の概要

(1) 小学校

(単位：％)

小学校国語	教科全体	領 域 別			
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
神戸市平均正答率	79.2	72.4	81.0	75.7	81.9
設定通過率	77.2	70.0	77.5	72.5	81.3
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で設定通過率を上回っており、「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「言語事項」領域の「文の内容を理解し、1つの文を2つの文の構成にして書き換える」設問は、22年度の正答率を大きく上回った。主語・述語の関係について低学年からの反復的な指導が好結果につながったと思われる。</p> <p>○「書くこと」領域及び「読むこと」領域は、設定通過率を上回ったが、「問題文に示された条件を読み取り制限字数でまとめる」設問や「理由を明確にして説明する」設問では、やや課題が見られた。</p>				
対応策	<p>☆漢字の指導については、繰り返し指導し、漢字だけを覚えさせるのではなく、文や文章の中で、適切に使えるように指導する。また、既習の漢字は他教科や実生活の中で、できるだけ活用するよう指導していく。</p> <p>☆「授業中の友達との意見交換の中で気づいたことや疑問点、次の授業につながる課題」などについて、字数の制限をするなどの条件を付けてノートにまとめる習慣を身につけるとともに、条件に応じて理由を明確にして説明させる指導を取り入れ、神戸市独自の読解力育成教材『ことばひろがる よみときブック』のより一層の活用を図っていく。</p>				

小学校社会	教科全体	領 域 別				
		地図の 基礎基本	日本の 地理	世界の 地理	身近な くらし	日本の農業や 水産業
神戸市平均正答率	70.2	81.9	68.0	65.7	52.7	70.3
設定通過率	68.2	78.3	67.5	66.7	55.0	66.0
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で、「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「世界の地理」領域は、新学習指導要領において新設された領域である。正答率は、設定通過率にはわずかに及ばなかったものの、全面実施後の指導の徹底により、22年度と比べて大幅に改善した。</p> <p>○「日本の地理」領域では、「日本地図を見て島の名前を漢字で答える」設問の正答率は「北海道」は92.9%であったが、「本州」は55.8%とばらつきが見られた。</p> <p>○「身近なくらし」領域では、「ゴミの処分に関する資料を読み取る」設問の正答率が60.2%であった。棒グラフと折れ線グラフの複合グラフであったため、逆の数値軸から値を読み取った誤答が3割近くとやや目立った。</p>					
対応策	<p>☆都道府県名などを機械的に覚えるだけでなく、位置を確かめたり気候や地形・産業・特色などと関連づけて考えたりする指導の充実を図る。また、既習漢字で記述されているものを漢字で書けるようにしていく。</p> <p>☆地球儀や白地図などを活用した授業実践例に学ぶとともに、世界地図を常時掲示したり、社会科の授業時間以外でも外国の話題に触れたり、世界の地理に対する児童の関心が高まるように工夫していく。</p> <p>☆棒グラフや折れ線グラフは小4算数での既習事項であるが、社会科でもグラフの読み取り方を丁寧に指導する。また、自分の日常生活と比べたり関連性について考えたりしながら、資料を読み取ったり話し合ったりすることにより力を入れていく。</p>					

小学校算数	教科全体	領 域 別			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係
神戸市平均正答率	77.2	75.6	83.1	76.5	80.5
設定通過率	74.8	73.6	75.0	74.0	80.0
評 価	概ね定着	概ね定着	良好	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で設定通過率を上回っている。特に「量と測定」領域は、5ポイント以上上回り「良好」な状況である。</p> <p>○「数と計算」領域では、「小数のかけ算とたし算を混合した計算問題」で、たし算をかけ算より先に計算した誤答が目立った。</p> <p>○「図形」領域では、「2枚の長方形の紙を重ねたところのできる図形（平行四辺形）を答える」設問で、やや課題が見られた。</p>				
対応策	<p>☆四則混合や（ ）など、計算の順序のきまりについて、具体的な場面に即して考えることで意味の理解を深めさせ、その上で、徹底した習熟を図っていく。</p> <p>☆図形を重ねる、色紙を折る、対角線で切る、複数の図形を組み合わせて形をつくるなど、図形の定義や性質を見つけるために豊かな算数的活動をさらに取り入れていく。</p>				

小学校理科	教科全体	領 域 別			
		物質	エネルギー	生命	地球
神戸市平均正答率	78.1	72.3	66.8	86.2	80.5
設定通過率	74.8	71.3	63.3	80.0	80.0
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	良好	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で設定通過率を上回っている。特に「生命」領域は、5ポイント以上上回り「良好」な状況である。</p> <p>○「生命」領域では、これまで課題が見られた「発芽条件についての比較実験」や「顕微鏡による観察」などに関する設問で正答率が着実に向上しており、観察や実験の指導が順調に進んでいると思われる。</p> <p>○「物質」領域では、金属の温まり方を問う設問の正答率は8割を超えたが、水の温まり方については設定通過率を大きく下回った。</p> <p>○「地球」領域では、「日本列島にかかる雲の写真を見て、今後、雲が『東』へ移動すると予想する」設問で、「西」または「北」に移動すると予想した誤答がそれぞれ約15%に上った。</p>				
対応策	<p>☆理科の学習で学んだことが、実際の自然の中で成り立っていることに気づいたり、熱の伝わり方など、生活の中で役立てられていることを確かめる指導も行い、実感を伴った理解を図っていく。</p> <p>☆身近な天気の変化について具体的に観察・記録を行うとともに、実感を伴った理解ができるよう、天気図や雲の動画などを活用して、広域な天気の変化と関連付け、自分なりに図や絵などでまとめさせる指導を取り入れていく。</p>				

【正答率及び設定通過率について】

- 正答率……正答した児童生徒の人数の割合（50人中40人が正答していれば80%）
- 設定通過率…問題を作成した際に設定した「おおむね満足できる状況」と判断する基準正答率
 設定通過率70%の問題：70%の児童生徒が正答していれば「おおむね満足できる状況である」と判断できる問題
 ※通過率は、その問題を過去に実施した際の正答率（全国調査、神戸市調査等）や問題の難易度から設定した。

【抽出調査の精度と評価について】

- 調査結果の精度として±5ポイントの誤差を見込んでおり、分析にあたっては、正答率の比較を行う際に、次の基準で評価を行った。
- +5ポイント以上…良好である +4.9～-4.9ポイント…概ね定着している -5ポイント以下…課題がある

(2) 中学校

(単位：%)

中学校国語	教科全体	領 域 別			
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
神戸市平均正答率	74.7	87.6	50.8	73.8	78.9
設定通過率	73.3	85.0	55.0	71.4	77.1
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で、「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「書くこと」領域では、「グラフから分かることを主語と述語を適切に使って記述する」設問の正答率が設定通過率を大きく下回った。正答のためには、「グラフの数値を用いる」及び「主語と述語の適切な対応」という条件を満たさなければならず、正答率が伸びなかったと思われる。無解答率も高かった。</p> <p>○「読むこと」領域では、「文章を読み登場人物の心情の変化を制限字数内にまとめる」設問で、正答率は設定通過率を上回ったものの、無解答率が15%に上った。</p>				
対応策	<p>☆表やグラフの入った説明文を教材として、文章中の図表の役割について理解させ、自分の言葉で文章化できるように指導する。加えて、主語と述語が正しく対応していない文を例示し、正しい文節の関係を理解させ、向上を図る。</p> <p>☆文学的文章の読解を通して、登場人物の心情を正確に読みとるとともに、それを適切な表現で書き表す練習を繰り返し行う。日常的に決められた字数で原稿用紙に書く習慣をつけ、さらには生徒同士で書いたものを読み合うことで表現に対する意識を高める。</p>				

中学校社会	教科全体	領 域 別	
		地理	歴史
神戸市平均正答率	57.3	64.8	47.0
設定通過率	58.8	64.0	51.8
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○「地理」領域及び「歴史」領域について、ともに「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「地理」領域では、「大陸名と海洋名の正しい組合せを選択する」設問や、「東アジアの地図を見て、それぞれの国の国土の特色や日本との位置関係について答える」設問については、定着や改善が見られた。各学校において、地図や地球儀を用いて実感を伴うような指導の工夫が行われた成果である。</p> <p>○「歴史」領域では、「日本の歴史の年表中に、『西暦 1 年』を正確に位置づける」設問では、正答率が設定通過率を大きく下回り、これまでの課題を改善できなかった。また、「奈良時代と平安時代の文化の特色について、与えられたキーワードを使ってまとめる」設問も、正答率が設定通過率を大きく下回り、無解答率も高かった。いずれも比較的難しい問題ではあるが、新学習指導要領で求められている学力を測る問題である。</p>		
対応策	<p>☆歴史の大きな流れと時代の転換点となる場面や人物を把握できるよう指導する。</p> <p>☆各時代の特色を多面的・多角的にとらえるには、学習事項の関連付けが重要である。新学習指導要領で掲げられている思考力・判断力・表現力の育成に向けて、個々の歴史事象の理解に加えて、同時代や時代間の歴史事象の関係について考えさせるなど、全体像をつかませる指導を行う。</p>		

中学校数学	教科全体	領 域 別			
		数と式	図形	関数	資料の活用
神戸市平均正答率	66.6	67.4	72.3	63.6	58.3
設定通過率	63.8	65.0	67.5	56.7	60.0
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	良好	概ね定着
分析結果	<p>○「関数」領域が、設定通過率を5ポイント以上上回り、「良好」な状況である。他の3つの領域についても、「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「資料の活用」は新学習指導要領において新設された領域である。「与えられた度数分布表から平均値を求める」設問は、正答率が設定通過率を大きく下回った。</p> <p>○「図形」領域では、「直方体の辺について『ねじれの位置』にあるものを答える」設問において、約8割は正答であったが、1割以上が平行の位置関係にある辺を答えており、立体図形の理解をより定着させる必要がある。</p>				
対応策	<p>☆目的に応じて資料を活用するためには、代表値、範囲の求め方、度数分布表等の書き方の理解を確実に定着させることが大切である。</p> <p>☆立体模型等を用いた実験や観察を通して、立体の特徴を実感する場面を設定し、図形に関する知識・理解を深めさせる。</p>				

中学校理科	教科全体	領 域 別			
		物質	エネルギー	生命	地球
神戸市平均正答率	56.6	52.2	68.1	62.6	26.1
設定通過率	54.8	53.3	61.4	58.9	35.0
評 価	概ね定着	概ね定着	良好	概ね定着	課題
分析結果	<p>○「エネルギー」領域が、設定通過率を5ポイント以上上回り、「良好」である。また、「物質」領域及び「生命」領域は、「概ね定着」と判断できる。一方で、「地球」領域については「課題がある」状況である。</p> <p>○「エネルギー」領域では、以前から課題とされていた「電圧と電流の関係のグラフを作成する」設問で正答率が向上しており、実験後のデータを整理する際に、グラフ作成の指導が丁寧に行われた成果が表れた。</p> <p>○「地球」領域では、「『ピカリア』という生徒が触れる機会が少ない新生代の化石を出題した」設問や、「地層のたい積物の粒の大きさと河口からの距離の関係を答える」設問など、比較的難しい問題を出題したため、正答率がやや低くなっている。</p>				
対応策	<p>☆地層のでき方について、化石などの具体的な教材の活用を進めるとともに、科学的な考え方をを用いて、自分の言葉で説明できるよう班での意見交換などを授業に取り入れる。</p>				

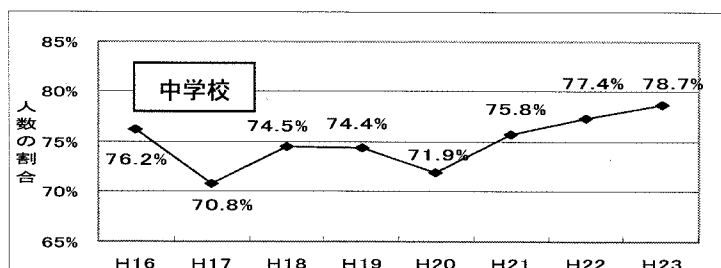
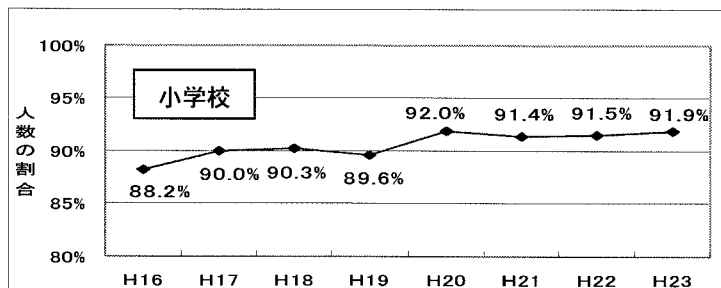
中学校英語	教科全体	領 域 別		
		聞くこと	読むこと	書くこと
神戸市平均正答率	70.1	72.2	72.9	62.0
設定通過率	66.5	70.0	66.7	60.0
評 価	概ね定着	概ね定着	良好	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で設定通過率を上回っている。特に「読むこと」領域は、5ポイント以上上回り「良好」な状況である。</p> <p>○「書くこと」領域では、「指定された内容を英語で書く」設問や「書く内容を考えて英語で書く」設問でやや課題が見られたが、「語順を並び替えて正しい英文にする」設問では、設定通過率を大きく上回った。</p>			
対応策	<p>☆聞いたり、読んだりした情報を書く活動に繋げる授業づくりが大切である。書く内容について、マッピングなどの方法でアイデアを書き出し、文やパラグラフの構成のパターンを指導しながらまとまりのある英文が書けるようにする。</p>			

4. 児童生徒の学習に対する意識・生活実態（抜粋）

（1）学習に対する意識・取組

① 学校の授業がどの程度分かりますか。

「よく分かる」と「だいたい分かる」合計の経年比較（選択肢は4段階）



小学校については、新学習指導要領の全面実施後も、「授業が分かる」と答えた児童が9割を超えるという高い水準を維持している。

中学校については、平成20年度以降、「授業が分かる」と答えた生徒の割合の上昇傾向が続いている。

平成18年度から取り組んできた「分かる授業推進プラン」の取組の効果が出てきていると考えている。

② 学校で、好きな授業がありますか。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計（選択肢は4段階）の比較

	H23神戸市	全国平均	差
小学校	97.2%	94.0%	+3.2
中学校	88.1%	80.3%	+7.8

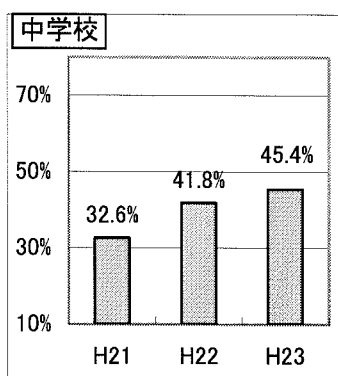
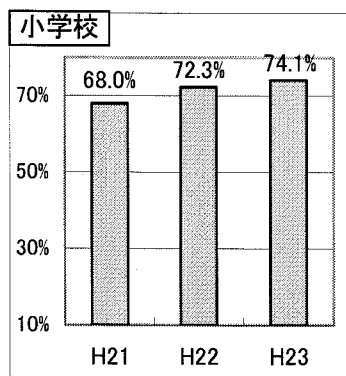
「全国平均」は、平成22年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の全国平均（対象：小6・中3）

調査時点や対象学年も異なるが、神戸市の小5・中2は、小6・中3の全国平均より、「好きな授業がある」と答えた割合は高い。特に中2は7.8ポイントも全国平均を上回っている。

神戸市では、児童生徒の学習意欲の向上に向けて、授業改善など「分かる授業」のさらなる推進に取り組んでいく。

③ 授業中に文章や資料を読んで、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。

「そうしている」「どちらかといえばしている」合計の経年比較（選択肢は4段階）



神戸市では、平成22年度から、「神戸まとめの達人運動」を展開し、小・中学校において、授業や学校生活の様々な場面で、「読んで 考えて まとめながら書く」活動を推進している。

このような取組を受けて、小・中学校とも、「そうしている」と「どちらかといえばそうしている」の合計が上昇しており、今後も引き続き、さらなる浸透を図っていく。

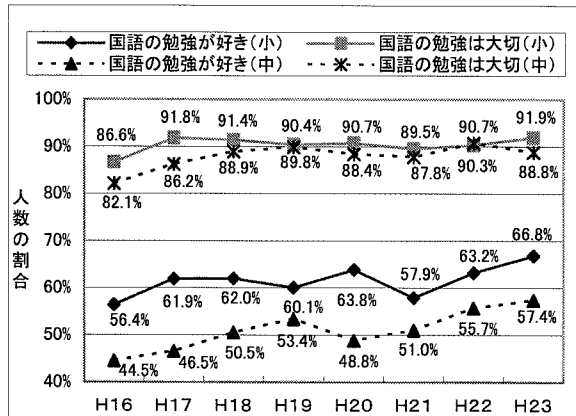
また、各教科の正答率との相関関係も強く、有効な取組だと考えている。

(2) 各教科に対する意識

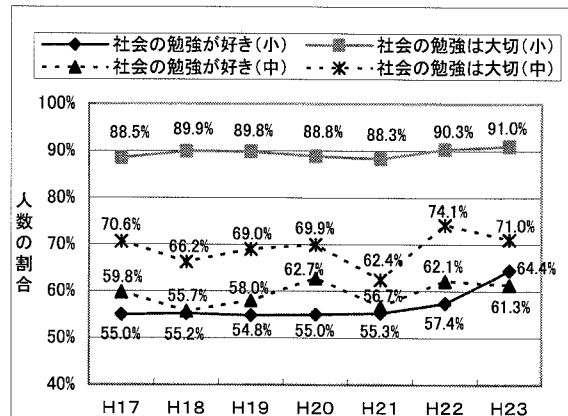
「勉強が好き」「勉強は大切」の経年比較

数値は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合計したもの
(選択肢は4段階)

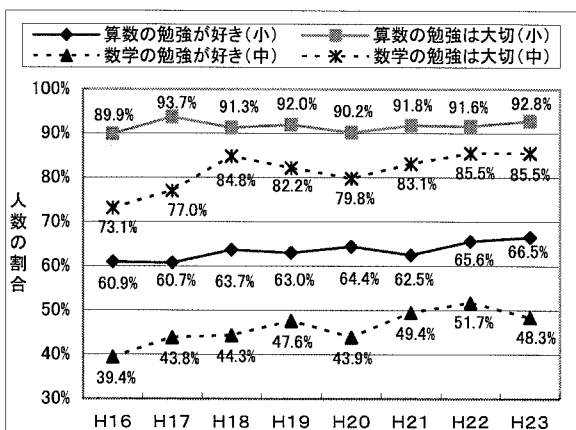
国語



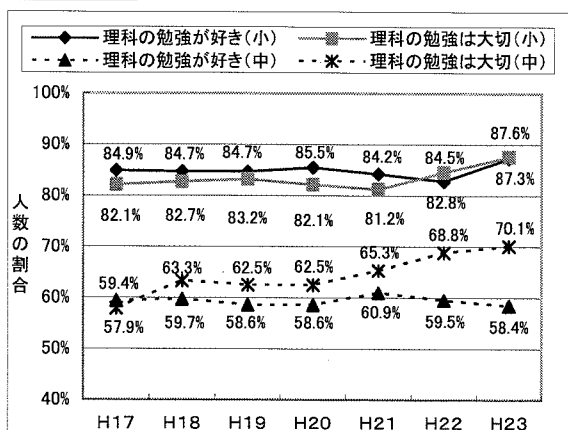
社会



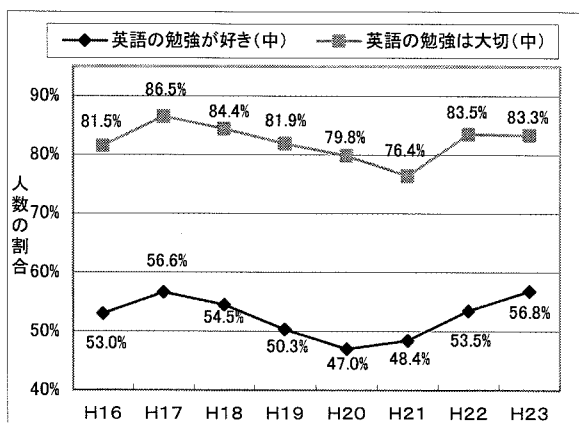
算数・数学



理科



英語



【全体の傾向】

小・中学校とも、ほとんどの教科で、「勉強が好きだ」及び「勉強は大切だ」と答えた児童生徒の割合は増加傾向にある。

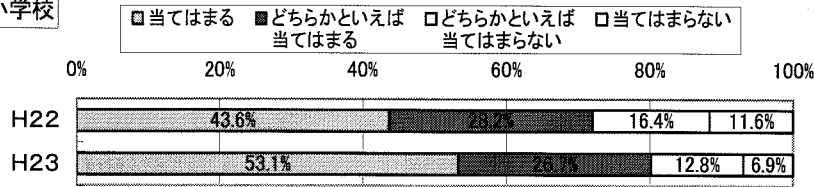
一方で、算数・数学や理科では、「勉強が好きだ」という割合が、小中学校間の差が大きくなっている。

今後も、学習面での小中連携の実践拡大を図り、小学校から中学校にかけて円滑な接続をさらに進めていく。

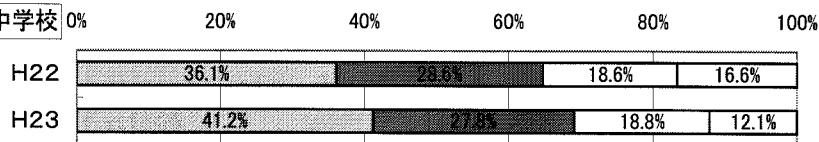
(3) 読 書

① 読書は好きですか。

小学校

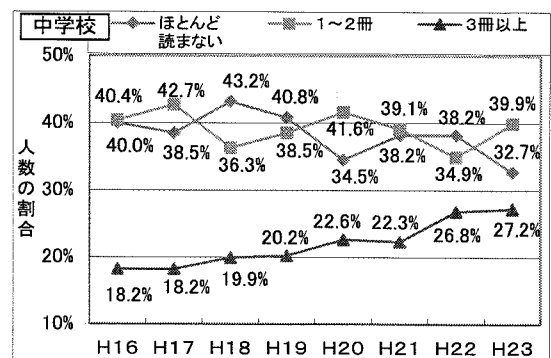
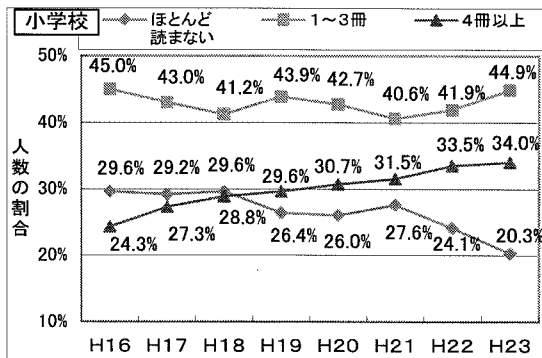


中学校



平成23年度は、「読書が好き」と答えた児童生徒の割合（「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計）が、平成22年度に比べて増えた。特に、小学校では8ポイントも上昇している。引き続き、児童生徒の読書への意欲が向上するような取組を続けていく。

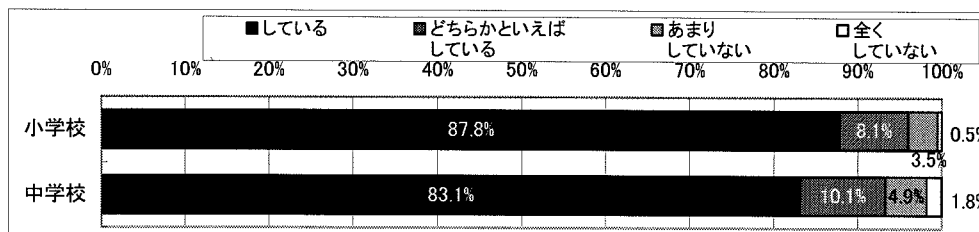
② 本(教科書・参考書・マンガ・雑誌は除く)を1か月に何冊ぐらい読みますか。



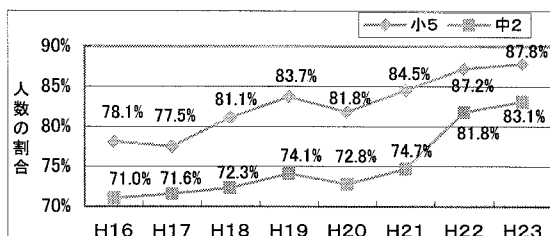
小・中学校とも、「ほとんど読まない」という児童生徒の割合が、平成22年度調査に比べて大きく減少しており、日頃の地道な読書活動の取組の成果が表れたと考えている。今後は、今回の調査結果では微増であった「1か月に4冊【3冊】以上の本を読む」（小5【中2】）と答える児童生徒の割合が増えるよう取り組んでいく。

(4) 基本的生活習慣

① 朝食を毎日食べていますか。

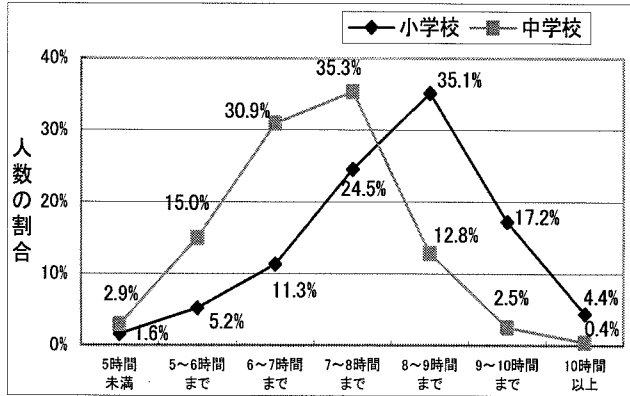


「毎日食べる」と答えた者の割合の変化



「している」と「どちらかといえばしている」の合計については、小・中学校とも、9割を超えており、平成22年度全国学力・学習状況調査（対象：小6・中3）の全国平均値と比較したところ、同程度の割合であった。また、「毎日食べる」という回答については、上昇傾向が続いている。

② 普段(月～金曜日)の睡眠時間は何時間ぐらいですか。



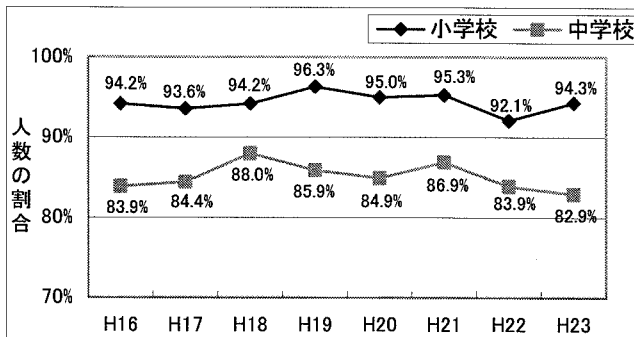
小5で最も多いのが「8～9時間」、中2では「7～8時間」という結果であった。

十分な睡眠は、学習面でも重要であり、今後、「早寝早起き」やテレビ等を見る時間やテレビゲームをする時間についての家庭でのルールづくり等を励行し、児童生徒の睡眠時間の確保に取り組んでいく。

(5) 家庭でのコミュニケーション

① 家の人にあいさつしていますか。

「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合の変化



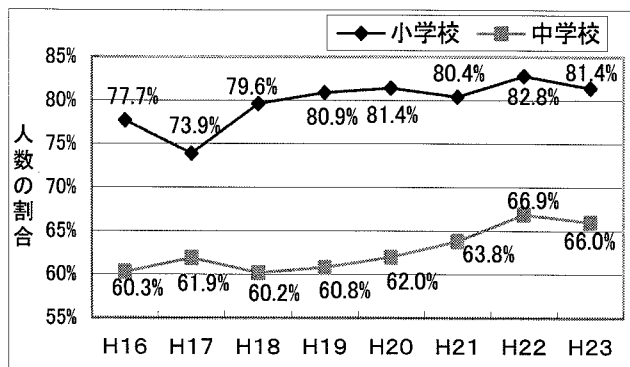
4段階の選択肢の中で、「している」と「どちらかといえばしている」と答えた割合が、中2でやや減少傾向にある。

各教科との正答率とも一定の相関関係が見られる。

今後とも、「あいさつ手伝い運動」をさらに広げ、家庭・地域とともに、子どもたちがしっかりとあいさつをできるよう取り組んでいく。

② 学校であったことや友達のことを家の人に話しますか。

「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合の変化

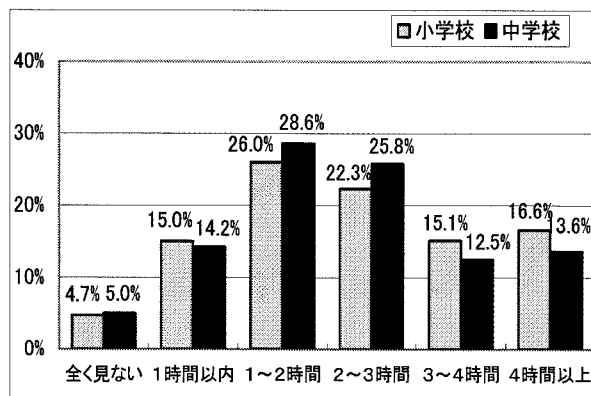


4段階の選択肢の中で、「している」と「どちらかといえばしている」と答えた割合は、小・中学校とも、22年度をやや下回ったが、中長期的には増加傾向にある。

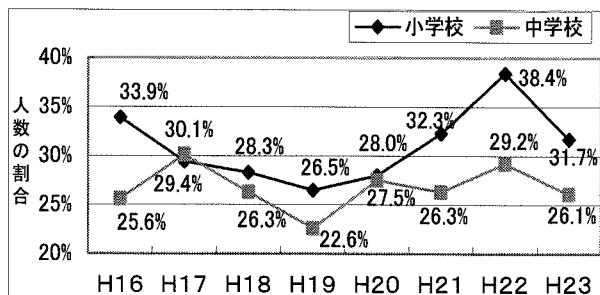
コミュニケーション能力を要する国語科等の正答率との相関関係も強く、家庭での会話の大切さをさらにアピールしていく。

(6) テレビ・ゲーム・インターネット

① 普段(月～金曜日)、1日にどのくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見ますか。

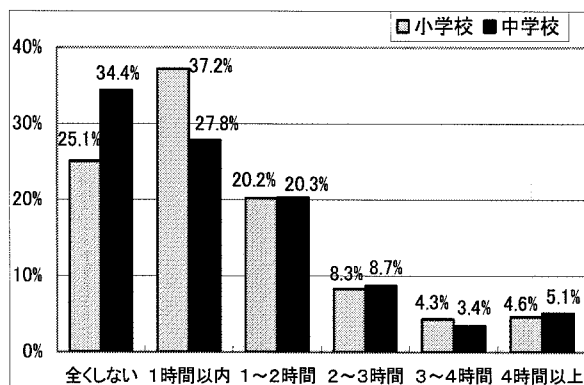


「3時間以上見ている」と答えた者の割合の変化

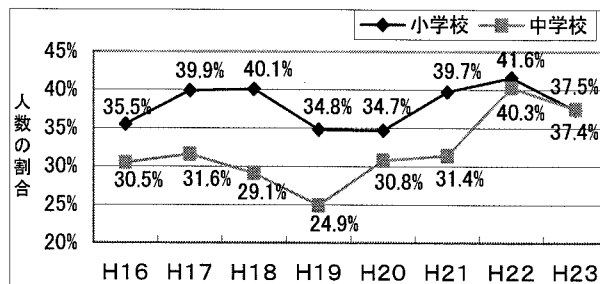


「1日に3時間以上見ている」と答えた児童生徒の割合は、平成22年度大幅に増加したが、平成23年度は、平成21年度並みの数値まで減少した。ただ、「1日に4時間以上見ている」という割合は15%前後に上っている。各教科の正答率とも一定の相関関係が見られる項目であり、今後とも、家庭とともに、けじめのある生活習慣の確立に取り組んでいく。

② 普段(月～金曜日)、1日にどのくらいの時間、TVゲーム(コンピュータゲーム、携帯式ゲームを含む)をしますか。

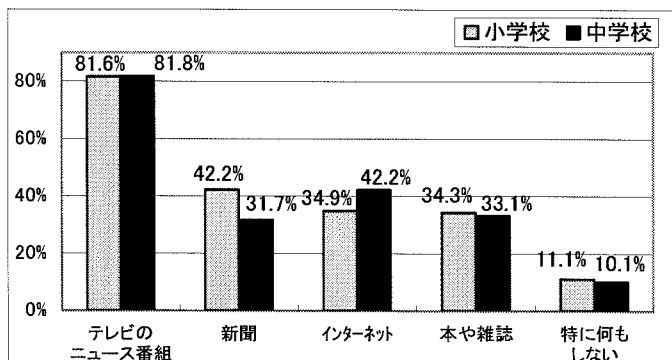


「1時間以上している」と答えた者の割合の変化



「1日に1時間以上している」と答えた児童生徒の割合は、平成22年度までの増加傾向に歯止めがかかった。ただ、「1日に2時間以上している」という割合は15%を超えている。各教科の正答率とも強い相関関係が見られる項目であり、今後とも、家庭とともに、けじめのある生活習慣の確立に取り組んでいく。

③ あなたが世の中の出来事を知ったり、情報を得たりするために、行っていることは何ですか。(複数回答可)

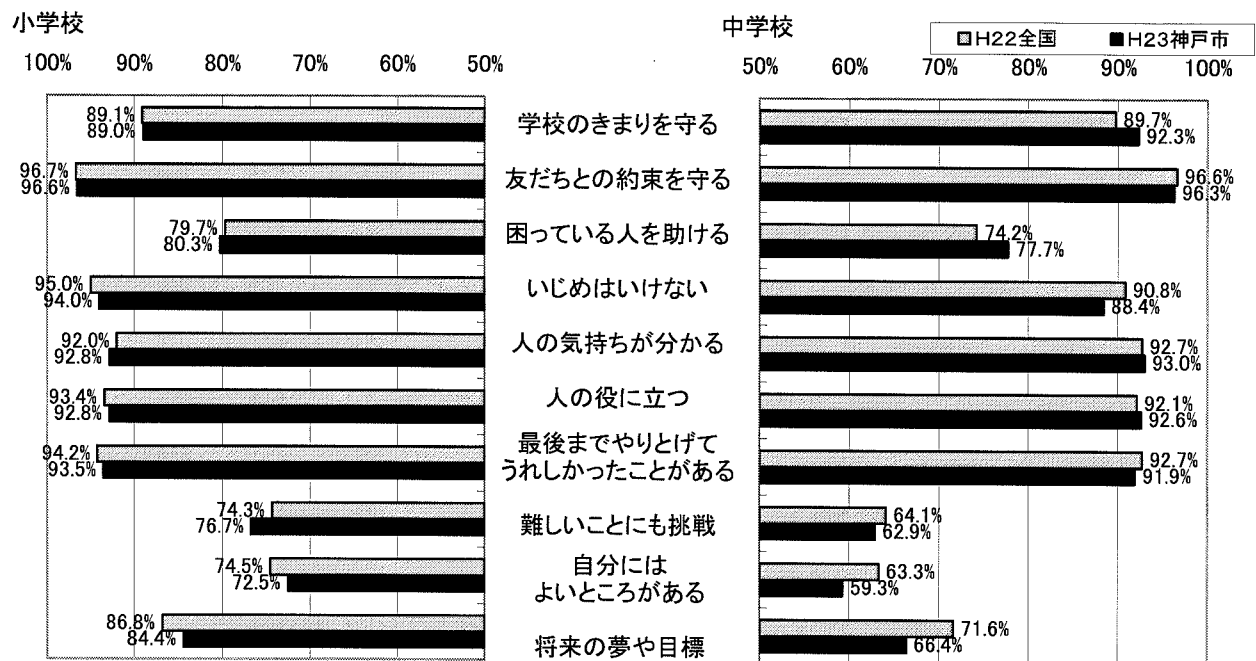


小・中学校ともに、「テレビのニュース番組」という回答が8割を超えている。また、「何らかのメディアを活用して情報を得ている」と答えた児童生徒の方が、「特に何もしていない」と答えた児童生徒より、全ての教科において正答率が高かった。

(7) 規範意識・自尊感情

平成22年度全国学力・学習状況調査との同一項目における
「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた者の割合の比較
(選択肢は4段階)

全国調査は小学6年生、中学3年生を対象に、22年度の4月に実施したもの。神戸市調査は、小学5年生、中学2年生を対象に実施している。



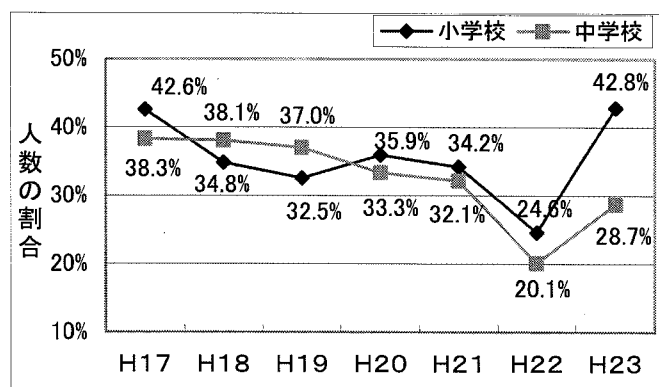
全体として、全国平均と大きな差は見られない。

その中で、小・中学校とも、「自分にはよいところがある」や「将来の夢や目標」という回答が、全国平均と比べてやや低くなっている。今後とも、児童生徒の自尊感情や自己有用感の育成に取り組んでいく。

(8) 社会への関心・地域行事への参加

○ 最近1年間に、ボランティア活動をしたことがありますか。

「何らかのボランティアに参加したことがある」と答えた児童生徒の割合の変化



平成22年度まで続いていた減少傾向が、平成23年度、大きく改善した。

東日本大震災の際に、率先して募金活動等に取り組んだように、きっかけとなるのであれば、ボランティアに積極的に参加しようとする心構えが、日頃の道徳教育や防災教育などを通じて、神戸市の児童生徒に身につけている。

<参考>

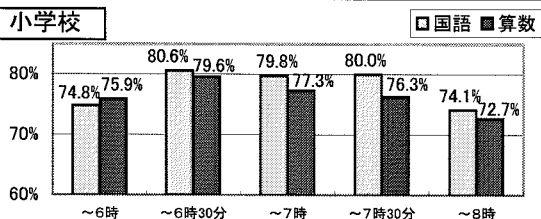
教科の正答率と 学習に対する意識・生活実態の関係

先に掲載した「教科に関する調査」と「学習に対する意識・生活実態調査」の結果に間に強い相関関係が見られる項目をまとめた。学校や家庭・地域で、児童生徒への指導に活用する。

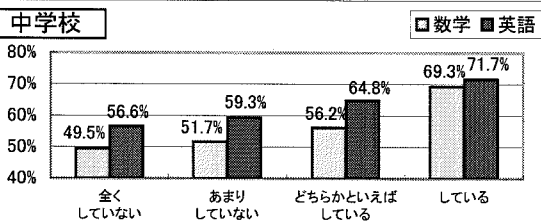
各設問の選択肢ごとに、「国語」「算数・数学」等の正答率をグラフ化した。
(グラフの縦軸は正答率、横軸は選択肢)

○早寝・早起き・朝ごはん、 生活リズムの確立を！

起床時刻×正答率

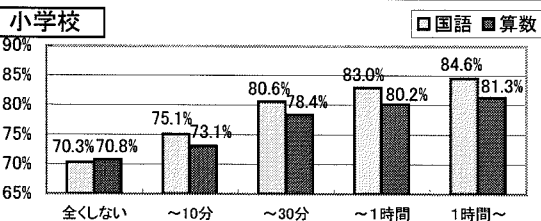


朝食の摂取×正答率

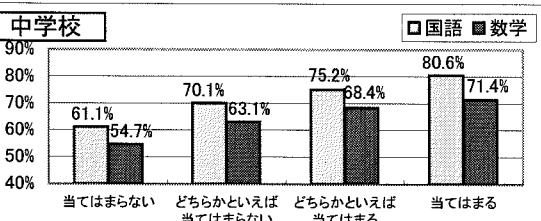


○「読んで 考えて まとめながら 書く」活動を！ ○本や新聞、毎日の読書習慣を！

1日の読書時間×正答率

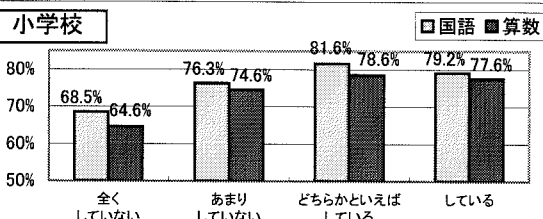


読書が好きだ×正答率

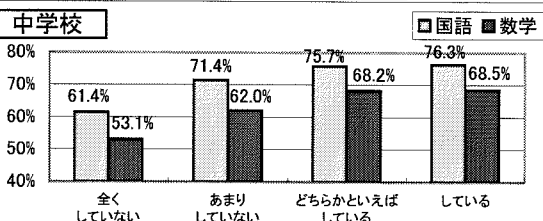


○笑顔であいさつ、自分から！

近所の人へのあいさつ×正答率

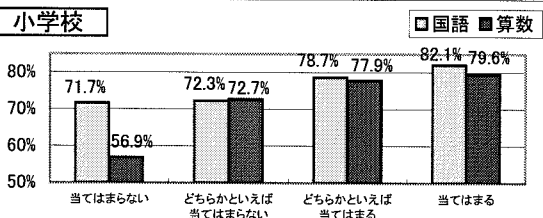


家族へのあいさつ×正答率

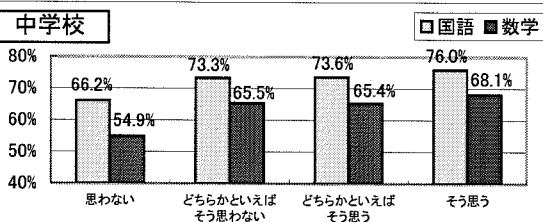


○学校大好き、授業も大好き！

学校が
好きだ
×正答率

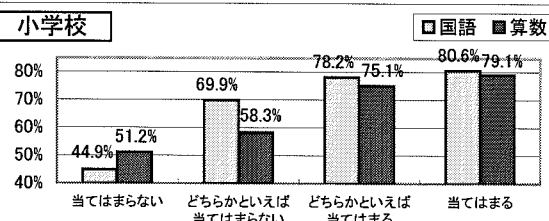


好きな
授業が
ある
×正答率

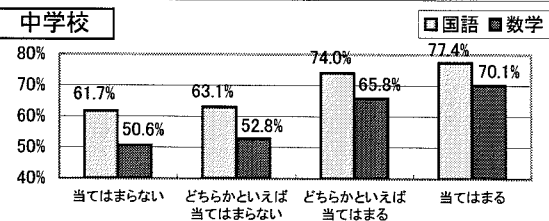


○学校や社会のきまり、 友だちとの約束を守って楽しい生活を！

を友だちとの約束
を守る×正答率

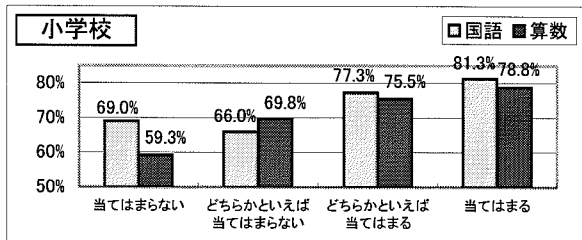


学校のきまりを
守る×正答率

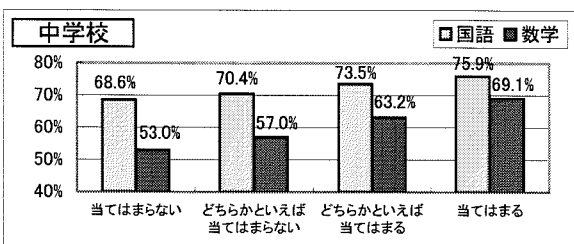


○人の気持ちを考えて、みんなで支え合い、
明るい生活を！
○最後まで、がんばってやり抜こう！

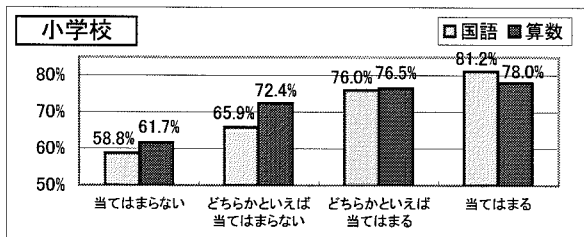
人の気持ちが分かる人間になりたい×正答率



人の役に立つ人間になりたい×正答率

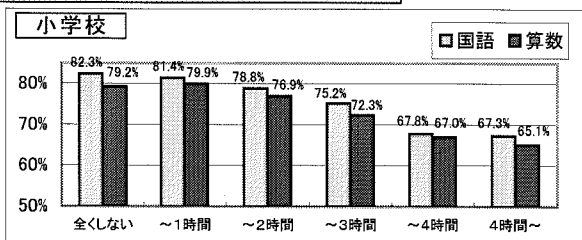


最後までやりとげて
うれしかったことがある×正答率

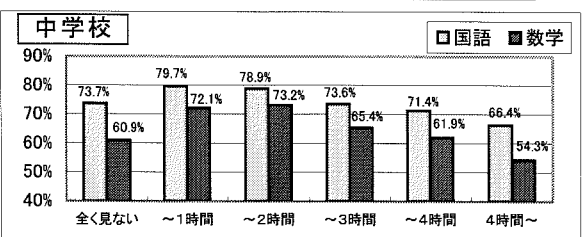


○テレビやゲームは時間を決めて！

テレビゲームをする時間×正答率

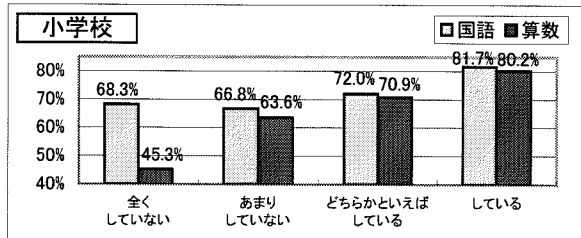


テレビやビデオ・DVDの視聴時間×正答率

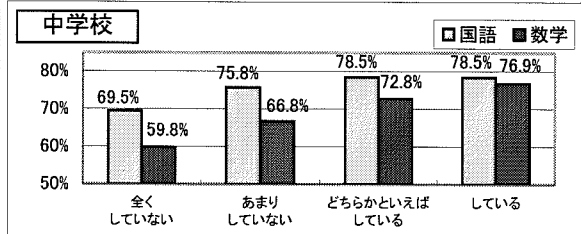


○宿題に予習、復習
まちがったところは、やり直し！

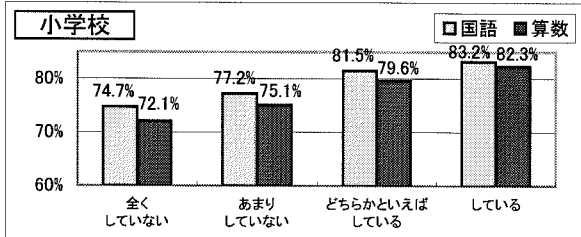
宿題×正答率



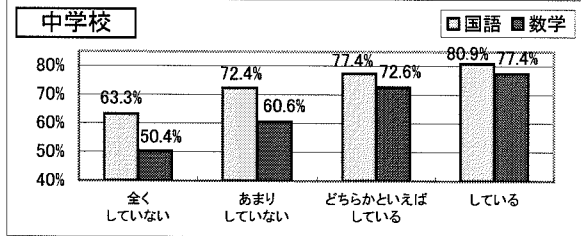
予習×正答率



復習×正答率

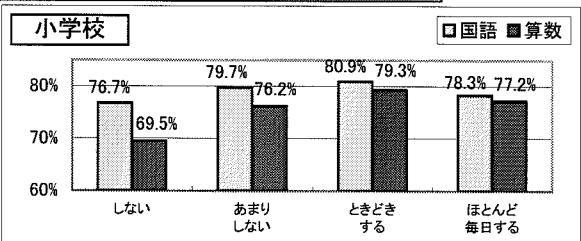


テスト
する
ところ
で
正答
率
が
低
い
と
思
う
こ
と
が
あ
る
こ
と
が
あ
る



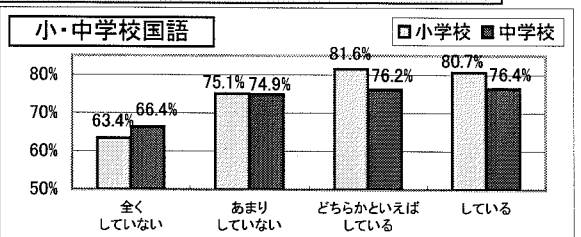
○外遊び、スポーツ通じて体力づくり！

運動やスポーツの頻度×正答率



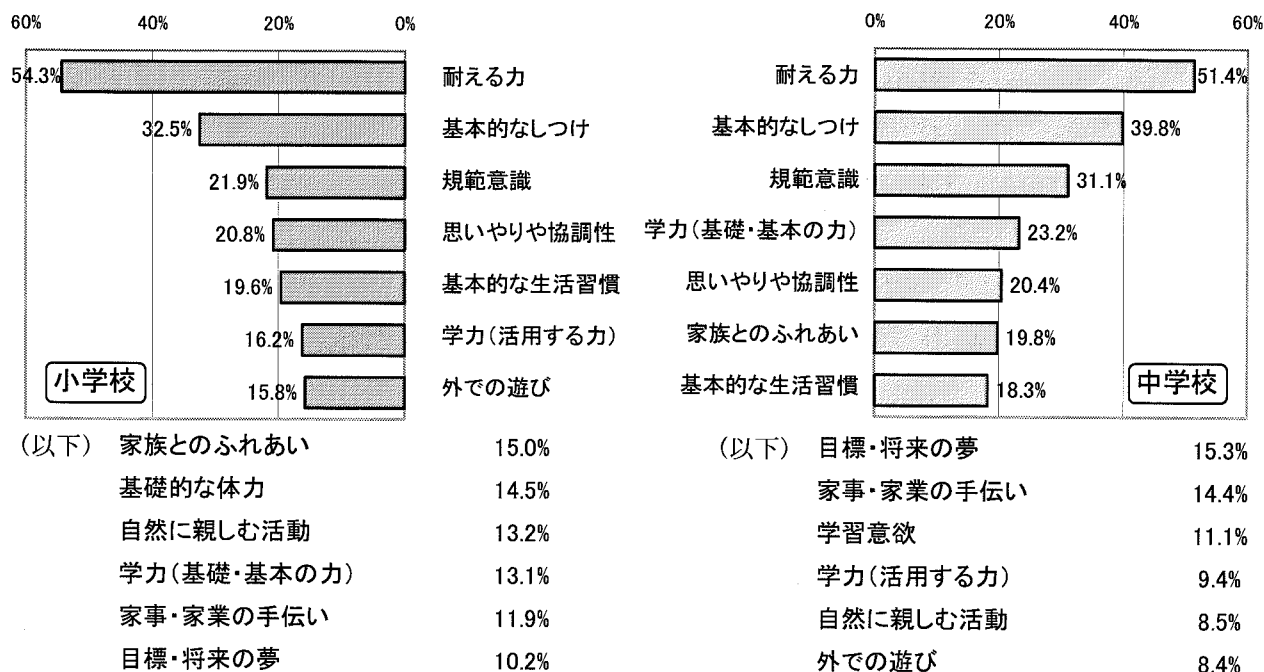
○いろんな話題で、
家族とコミュニケーションを！

家族に学校や友だちのことを話す×正答率



5. 学校教育活動等に関する教員調査（抜粋）

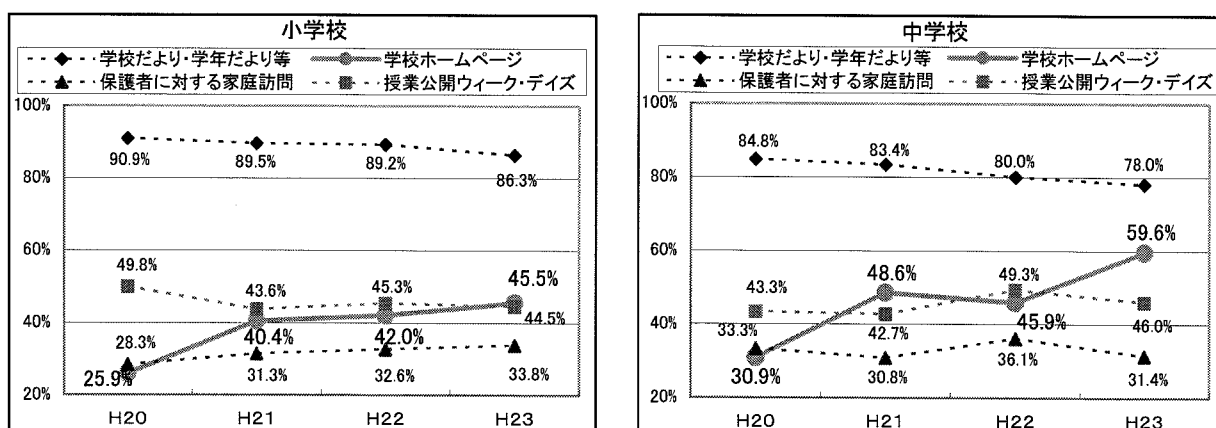
① 児童生徒に不足していると思うことを3つまで選んでください。



小・中学校ともに「耐える力」が最も多く、50%を超えている。以下、「基本的なしつけ」、「規範意識」と続き、小中同様の傾向が見られる。「基本的な生活習慣」や「家族とのふれあい」という回答も多い。この傾向はほとんど変化しておらず、児童生徒に毎日関わっている教員の意見ということで、非常に参考となる調査結果だと考えている。

② 保護者や地域による学校教育への理解を進め、連携協力を推進するために、教育活動の情報をどのような方法で保護者や地域に提供していくべきだと思いますか。次から3つまで選んでください。

選択肢9項目のうち 上位4項目の経年比較



教育活動に関する情報提供については、「学校だより、学年だより等」、「授業公開ウィーク・デイズ」、「保護者に対する家庭訪問」などに力を入れているが、「学校ホームページ」に対する意識が中学校を中心に特に高まっている。神戸市では、発信力に優れた学校ホームページの事例を全市に紹介するなどして、学校ホームページの発信力強化に努めていく。